令和６年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　熊西　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、３年生を対象として、令和６年４月１８日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１０日から４月３０日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

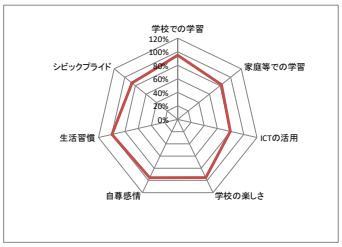
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識・技能に関する問題については全国平均をやや上回るもしくは同等に答えることができているが、思考・判断・表現を問う問題を苦手としている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる問題や表現の技法について理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる問題や具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	データを活用する問題はよく解けているが、数と式や図形に関する問題をやや苦手としている傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる問題や複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる問題や与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる問題	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・　「友達関係に満足しているか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。 ・　主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後は学校全体で授業改善を進め、生徒が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 ・　「家庭学習においてICTを活用している」「授業で、PC・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

○ICTを活用した授業を研究取り入れていく。
○思考・判断・表現の部分において、生徒が自分自身の考えを深めたり、発表したりする場を授業の中で設定していく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

起床・就寝時間は結果を見ると乱れが少ない。しかしながら、家庭での学習が定着しておらず、ICTを使った課題配信などをおこなう等の取組が必要となってくる。また、地域と連携した取組も今後検討していく必要がある。